

鈴鹿市立合川小学校		()は昨年度結果		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価
学力向上 ×ICT	1 授業改善 ・わかる授業をめざした指導方法の工夫・改善に取り組む。 (児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」90%以上) (保護者アンケート「学校は、確かな学力の育成をめざし、わかりやすい授業に努めていますか」90%以上) ・全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの結果分析を行い、授業改善に活かす。 (全国学力・学習状況調査、第1回みえスタディ・チェック結果 県平均以上)	●児童アンケート 89%(93%) ○保護者アンケート98%(98%) 全国学力・学習状況調査 6年：国語○、算数○、 第1回みえスタディ・チェック 4年：国語○、算数○ 5年：国語○、算数○、理科○	○全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの採点を職員が行い、結果を研修部で分析して課題となる単元や改善案を提案・共有した。 ○全国学力・学習状況調査の結果についてs-p表を使った問題分析を研修部で行い、児童が特に苦手とする問題や早期改善が可能な問題を全職員で共有し、学習指導の改善に努めた ○夏季休業中に研修部や情報担当を中心にICT活用についての研修を開き、授業での具体的な活用方法を紹介した。 ○教育指導課の指導主事や研修部から、複線型授業についての研修を開いた。 ●複線型授業など児童主体の授業への転換を進めることによって、児童にとって「内容がよくわかる授業」ではなく、なっている部分もある。(わからないことに気付けるという肯定的なとらえ方もできる)	○工夫、改善を常にしたいだいてるのが子どもを見ていてわかります。ありがたいです。 ○学力向上を目指した取組結果が数値にも表れていると思います。複線型授業については、児童個人には良いかと思いますが、先生方へのご負担が大きいのではないかと感じます。 ○S-P表をうまく活用し、早期改善問題を全職員で共有することができたことは、すごく評価できます。少ない人数だからこそ一致団結！合川の強みだと思います。・複線型授業について、児童にとって内容がよくわかる授業になっていない部分をどのように改善していくのか。 ○常に子どもたちの学力向上に取り組んでいる。 ・今後も学力や学習状況に応じて問題改善に努めてもらいたいです。 ・複線型授業はまだ馴染みも少なく、(児童は感じていないかもしれませんが…)主体的活動が得意な児童、苦手な児童がいる中での実施も難しい所もあると思うが、非認知能力アップにもつながる取組なので、定着できるよう今後も研修を重ねていただき、よりよい学習となるよう努めていただきたい。
	2 英語教育の推進 ・児童に満足度の高いコミュニケーション活動を提供する。 (児童アンケート「英語の授業や活動は楽しいですか」90%以上)	○児童アンケート 94% (87%)	○MorningEnglishやEnglishTimeを1～3年生で行うことで、歌やゲーム、絵本などを通して英語に親しむことができた。 ○6年生では修学旅行で外国人にパンフレットを渡して、鈴鹿市の魅力などを英語で発信させた。 ○週に3日、ALTが勤務し、給食を教室で一緒に食べるなど様々な場面でかかわることができた。	○子どもたちが活動を楽しんでいると感じてよいと思います。 ○楽しみなが英語に親しむことができていくことが、児童アンケートの結果にも表れていると思います。 ○様々な工夫をして、非常に素晴らしい。 ・英語に接する事は低学年から必要だと思うので、授業以外でも英語を取り入れた活動を多く行ってほしいです。
	3 家庭学習の定着 ・宿題や自主学習の指導を通して、家庭学習の習慣化と定着を図る。 (児童アンケート「[15分×学年]の時間、家で勉強していますか」90%以上)	●児童アンケート 79%(72%)	○4月に「家庭学習の手引き」を配付し、自主学習の進め方について各学年で指導した。 ○家庭学習強化週間などの際に、[15分×学年]の家庭学習時間を意識するよう児童に促した。 ○レインボーホール前に、自主学習ノートのコピーを掲示を行うことで、自主学習に取り組む児童の意欲を高めたり、自主学習の書き方の参考として示すことができた。 ●「自主学ワールド」の取組を始めたのは今年度からであるため、どの子も参加できるように来年度以降も働き掛ける必要がある ●自ら自主学習などに取り組む一方で、自主学習や宿題に取り組むことが難しい子がいる。保護者に協力してもらい、宿題に取り組む習慣をつけたい。	○自主学習ノートのコピー掲示は、良い取組であると感じます。 ○自主学習発表コーナー設置は素敵なアイデアで、子どもたちにも刺激があったと思います。 ・なかなか難しいかもしれませんが、学習意欲向上に達成感を得られると良いかな？と思いました。 ・自主学習と宿題を「15分×学年」の時間でできているのか疑問。自ら自主学習に取り組むことが難しい子にとっては、宿題をするだけで、もっと時間がかかるのではないかと。児童アンケートの結果は学年ごとにまとめてほしい。 ・自主学習の取り組み方には個人差があるので、難しいと思うが内容や量を検討し指導してほしいです。
	4 ICTの活用 ・日常的にICT機器を活用した協働的な学びを行い、わかりやすい授業を実施する。 (児童アンケート クロムブックを使った学習はわかりやすいですか、80%以上)	○児童アンケート 92%	○月2回程度、ICT支援員の方に来校してもらい、授業の活用方法などを教わった。 ○夏季休業中、ICT研修を開き、CanvayaPadlet具体的なアプリの具体的な活用方法を紹介した。 ○授業に携わる職員の多くが、教育指導課の「デジタル教材バンク」のクラスルームに参加し、ICTの活用方法について研鑽に励んだ。 ○高学年では児童用のデジタル教科書を活用した授業を進めた。	○すばらしいと思います。 ○学校でICT機器を扱うことで、正しい使い方が習得できるように思います。 ○研修に参加する等、スキルアップに努めていると思います。 ○子どもたちのクロムブックでの早打ちはすごい。これをいかして、さがす、調べる、知る、創ると、どんな知識と教養と常識が培われていると思います。 ・ICTの活用について、学習以外のことに活用していないか、ちゃんと管理できているのか知りたい。
			今後の改善点	
			来年度も、各調査問題については採点及び分析を行い、課題や改善策を共有する。 複線型授業については研修部の職員を中心にさらに研修を積み、校内へ発信していく。また、すべての授業を複線型にするのではなく、授業を通してどのような力を児童につけたいかという目的を明確にもち、児童にも教師にも複線型授業を行うメリットがある教科や単元を精査して、複線型授業を取り入れていく。 困っている友達を見捨てずサポートしたり、自分と異なる考えの友達と意見を交流したりすることの大切さを子どもたちに実感させ、学級づくりに力を入れながら授業を工夫していく。	
			来年度も、外国語の授業がない低学年のうちから、English TimeやMorning Englishを行い、英語に親しめるようにする。また、こうした活動が、再編成後も合川小学校の特色として残るようにしていく。 引き続き、給食の時間など授業以外の時間にALTと児童が関わる時間を確保していく。	
			来年度も、「学年×15分」の家庭学習時間を意識させ、学年に相応しい量の宿題を出したり、早く宿題を終えられる子は自主学習に取り組みめるよう促したりしていく。 また、児童が自然と自主学習に取り組みたくなるよう、自主学習ノートの掲示を来年度も行っていく。	
			情報担当者や研修部の教員が中心になってタブレットの活用例を発信し、全職員がICT機器を積極的に使うよう心がけていく。 授業だけでなく、会議や各分掌の仕事でもタブレットを有効活用できるようにしていく。 また、正しい知識や使い方でタブレットと付き合っていけるように、ICT支援員と協力して、情報モラルやデジタルシティズンシップについての学習を取り入れていく。	

非認知能力育成	1 学校行事や学年行事の充実（自己肯定感） ・学校行事や学年活動等で児童一人ひとりに目的を持たせ、「出番・役割・承認」の場や自分のよさをふりかえる場を設け、自己肯定感を高める。 （児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」80%以上）	○児童アンケート 93%(71%)	○学校全体で行事の前に目的や自分なりの目標を考える機会をもった上で行事に臨み、その後ふりかえる場を設けたことで、児童は達成感や自己有用感を持つことができた。 ○運動会では、練習に前向きに取り組んだり、難しいことにも挑戦したりしたことで、最後までやり遂げることができた。それが自己肯定感につながった。 ○行事では、個人のがんばりだけでなく、集団として一つになってそこへ向かう意識を持たせられるような働きかけを行った。	○本当にすばらしいと思います。合川の先生方の人間性もあると感じています。ありがとうございます。 ○児童アンケートで肯定的な回答が多くなったのは、取組の成果だと思います。 ○自分での自己評価は難しいですが、自分なりにがんばったという素直な気持ちが出ていていると思う。 ○アンケート結果がすべてを物語っています。日々、先生方が子ども達とどれだけ向きあってくださったかよくわかる結果に、保護者として大変嬉しい結果でした。合川の子たちが元氣いっぱい笑顔を取り戻しているように感じます。 ・学校行事などにおいて、可能な限り「運営委員」にも参加してもらい、様子（状況）を見てもらう事も必要かと思います。（学習発表会とか授業参観とか） ・自己肯定感が上がったことは良いと思うが、行事や運動会で自己肯定感が上がる児童がいる一方で、小教であつても逆に下がってしまう児童も必ずと言っていいほどいる。集団として良い方向にと考えるだけでなく、役割分担を考える時に一人ひとりのことに注意してほしい。	・来年度も学校全体で行事の前に目的や自分なりの目標を考える機会をもった上で行事に臨み、その後ふりかえる場を設ける。 ・学級の中で係の分担などが決まったときに、仕事内容を明確にし、自分の出番を事前に確認する機会をもつことで行事等に安心して参加できるようにする。そうすることで、どの子も自分の役割を達成できたと感じられるのではないか。
	2 たてわり班活動の充実（社会性） ・たてわり班活動で、学校や学級の友だちと触れ合う機会を通して、仲間を思いやる気持ちや社会性を育む。 （児童アンケート 縦割り班活動で友だちと仲良くすごしたり活動したりすることができたか 90%以上）	○児童アンケート 97%	○たてわり遊びに出ていく際に、同じ班の子と声をかけあつて出て行ったり、遊びの中では他学年の子にやさしく教えたりといった姿がみられた。 ○たてわり遊びの中で、集団活動が苦手な子に対しても、その子の様子に寄り添って、遊びに誘ったり、そつとしておいたりする姿がみられた。 ○高学年（特に6年生）にとっては班のリーダーとして一人ひとりに寄り添った対応ができてきている。異学年で一つのことに向かったり、かかわったりすることで、良い見本としてがんばっている。	○他学年とのかかわりは、思いやりの心を生み育てる良い活動だと思う。 ○たてわり班は、合川のすばらしい活動だと思います。将来、上級生、下級生とつながりがあると思います。 ・集団活動が苦手な子に対して、そつとしておくのは無視していることになる。そんな時のために先生がいるのではないのか。 ・高学年の子がリーダーとして一人ひとりに寄り添った対応ができているかどうかの判断は、児童アンケートからだけではわからない。	・合川の子もたちは、少人数だからこそ、学年は違っても個々の特性を理解している中で、「今は寄り添って誘ってみよう」「少し時間がたったら声をかけよう」というように、関わり方を工夫している。集団活動から離れた児童に対して、だれが寄り添うか、見守るか、声をかけるかという点については、「たてわり活動は、子どもたちの自治活動である」ということを再確認し、教員も関わってきたい。
	3 粘り強く取り組み態度の育成（やりぬく力） ・学習や学校生活における目標やめざすべき姿を明確にし、粘り強く物事に取り組ませる。 （児童アンケート「学習や生活で自分の決めた目標に向かってあきらめずに取り組みましたか」90%以上）	○児童アンケート 91%	○単元の初めに単元の流れを児童に示し、どのように授業が進んでいくのか見通しをもたせることを心掛けた。 ○授業中、わからないことや困ったことがあった際は、児童が教室内を移動して尋ねたり教えたりするという活動を積極的に取り入れることで、児童があきらめずに学習に取り組めるようになった。	○すばらしいと思います。 ○授業中でも児童同士で支え合う活動を取り入れたのは、教える児童、教わる児童の両者に良い影響があるように思います。 ○子ども達の教え合う姿を見ると、仲間としての信頼感が深まっていると思う。	児童同士が話し合ったり、考えを見せ合ったりする活動を、来年度も積極的に取り入れていく。
	4 決められたことに対して計画的に取り組む姿勢（自制心） ・授業の課題や宿題に対して、計画的に学習を進めさせる。 （児童アンケート 学校での学習や宿題を計画的に取り組めましたか 90%以上）	○児童アンケート 91%	○「授業力UP5」や「探究的な学習」などを意識した授業づくりを行い、授業の流れをパターン化することで、児童に見通しをもたせやすくした。 ○各学年で、自由進度学習を積極的に取り入れることで、計画的に自己調整をしながら学習を進める児童を増やすことができた。	○すばらしいと思います。 ○努力されていると思う。 ○今後も温かく見守って下さい。 ・「授業力UP5」の視点が、児童に対してどのような影響をもたらすのか、素人には理解が難しく感じました。 ・学習に計画的に取り組めた児童が91%いるのは素晴らしいが、小学生では自分で計画を立てて取り組むのが難しい児童も多いのではないのか。 ・自由進度学習について詳しく知りたい。	計画を立て、自己調整しながら学習を自分で進められるような授業を行っていく。個人で計画を立てたり、調整したりすることが難しい子には、教師や友達と関わりながら協働的に学べるようにしていく。
長期欠席対策	1 新たな不登校を生まない学校づくり ・教職員と子ども・子ども同士の温かい人間関係づくりに努める。 （児童アンケート「学校は楽しいですか」95%）	●児童アンケート 91%(93%)	○職員会議で児童の様子の共有をおこない、全教職員で全児童を見守ることができた。 ○「なかまづくり」のレポートを作成することで具体的な取り組みを教職員同士で交流したり考えたりすることができた。 ●支援についてもらえると来ることができる子どももいるが、支援が必要な子に対する職員が不足している。	○全教職員が全児童を見守ることができたのは、児童数が少ない合川小の良い面であるかと思えます。 ・職員不足は難しい課題と考えます。 ・不登校を生まない学校づくりのために、児童アンケート「学校は楽しいですか」95%という目標は違う。ここは100%を目指すべきではないのか。95%以上の児童が楽しければ、残りの5%の児童が楽しくなくても良い目標では、不登校の児童は減らない。 ・今後も全児童の見守りを続けてもらいたい。 ・支援があれば来られる子どもがいる現状を知って、何とか助けてあげたいです。教育委員会への要望はもちろんですが、学校単体での採用はできないのですか？	・引き続き、全教職員で情報を共有しながら児童の様子を見守っていく。 ・不登校を生まないために安心してすごせる学級づくりを行っていくとともに、日常的な観察や会話を通しての支援や、見守りをしていく。 ・支援シートを活用し、学校全体で見守ったり、次年度への引継ぎを行う。
	2 保護者との連携 ・日ごろから保護者との関りをもち、気になることがあれば早めに家庭訪問等を実施する。 （保護者アンケート「学校は、お子さんに対して親身になって対応し、一人ひとりを大切にしたい教育活動を行っていますか」95%）	○保護者アンケート 97%(96%)	○保護者との連絡をこまめにとり、児童の様子の共有をはかることができた。 ○関係機関と連携を図ることができた。	○合川ならではの厚手さで良いと思います。 ○保護者との連携が上手にしていることも、児童数の少ない合川小の良い面であるかと思えます。 ○努力されていると思う。 ○学校はいつでも相談できる場所であるという事が保護者にも伝わっている結果が、アンケートにも反映されています。学校（職員室）の雰囲気も明るくてとても素敵な学校であると感じます。 ・保護者の方からも相談しやすい雰囲気があると良い。	・引き続き保護者と連絡を取り合い、学校と家庭と連携して児童を見守っていく。 ・学校がチームとなって情報を共有し、対応・支援していく。

地域との連携	1 鈴鹿型コミュニティ・スクールの推進 ・学校運営協議会での話し合いを基に、学校、地域、保護者が協働した学校づくりを進める。 (保護者アンケート「学校は、地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校に向けて努めていますか」95%以上)	○保護者アンケート 95% (97%)	○学校運営協議会で学校の現状を伝えるとともに、学校経営方針や全国学力・学習状況調査、児童・保護者アンケートの結果を周知し、学校の諸問題を共有しながら教育活動を推進することができた。 ○学校運営協議会の活動組織および活動方針についてグループ別討議を行い、学校の教育活動について様々な意見をいただくことができた。 ●全体的に学校からの報告が多くなり、委員からご意見をいただく時間が少なかった。また、学校の教育課題について熟議を重ねる機会が不足していた。	○保護者アンケートで肯定的な回答が多いのは、学校が地域や保護者と良好な関係性を築けている現れだと思います。 ○学校の現状を知りたいので、学校からの報告が多くなったのは良いのではないかと。 ○地域、保護者が参加し協力して活動を行っていると思う。 ・色んな意見や思考をまとめることはすごく大変なことだと思います。できる事をできる人ががいていく事で改善できることがあるといいなと思います。	・今後も全国学力・学習状況調査の結果や分析、児童、保護者アンケートの結果、その他行事等の教育活動や諸課題について、情報共有を行っていく。 ・学校の諸課題については、学校運営協議会の討議内容として取り上げ、各委員よりご意見やご指導をいただき、教育活動に反映させる。 ・来年度も、専門部会(学習支援部、環境部、安全部)を組織し、学校運営協議会において、「学力向上」や「環境整備」、「安心で安全な生活確保」についての熟議を行う。 ・令和8年度の学校再編に向け、必要に応じて情報を共有したり、諸課題について検討を行ったりしていく。
	2 情報発信の推進 ・学校だより・学年通信・ホームページ・メール配信などを活用し、情報発信に努める。 (保護者アンケート「学校は、学校だより・ホームページ・メール配信等で、積極的な情報発信に努めていますか」90%以上)	○保護者アンケート 91%(93%)	○定期的に学校だよりや学年だよりを発行し、学校や学年の様子を保護者、地域へ発信することができた。 ○緊急を要するものは、配信メールを活用し、速やかに保護者、地域へ情報発信することができた。	○すばらしいと思います。 ○現状で、十分な情報発信がなされていると感じます。 ○回覧板でまわってくる学校だよりを、楽しみにしています。 ・PTA活動(依頼分)の回覧がうまく回らなかったことが何度あったので、次年度はしっかりと準備期間がもてるような配布、回覧でお知らせできるよう計画表なども用いて、漏れ、遅延のないように心がけていきたい。組長さんに助けて頂き、何とかお知らせ出来たことは普段からの連携による信頼関係の証であり、感謝しています。 見守りボランティアでお世話になっている方々へ、学校がお休みになる時(急な休業以外)のお知らせの	引き続き、学校だよりや学年だよりで、学校生活の様子を発信していく。
安全安心な学校づくり	1 いじめのない学校づくり ・人権教育を基盤とした集団づくりに取り組み、子ども同士のつながりを深める。 ・情報共有を徹底し、いじめをはじめとした問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。 (児童アンケート「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」100%)(保護者アンケート「学校は子ども同士のつながりを大切に、いじめのない笑顔あふれる学校にするために努めていますか」95%以上)	●児童アンケート 99% (98%) ○保護者アンケート100% (98%)	○少ない児童数であることから、全教職員で日々の児童の様子に気を配ったり、対話をしたり、互いに情報交換をしたりして、実態把握を行ってきた。学期ごとのいじめアンケートにおいて、いじめ事象が予測された際は、いじめ防止対策委員会を開催し、管理職も含め、複数体制でその後の指導や対応について話し合い、未然防止に努めることができた。 ○いじめ防止月間の取り組みの一つとして、全校で「いじめ防止川柳」作りに取り組み、いじめを生まないいじめを絶対に許さないための意識付けをすることができた。 ○ホンダビートの出前授業でいじめ防止の啓発をしてもいい、改めていじめを許さないという意識付けとなった。	○学期ごとのいじめアンケートは、いじめ事象の早期把握に有効な取組であると感じました。 ○児童アンケート100%。素晴らしい！合川の子どもたちは優しい子ばかりで、いじめに關しては厳しい目をもっていると思います。しかし、昭和の時代と違い、繊細な子が増えていることも事実で、些細なことも大きく捉え過ぎてしまうケースもあるもので、今後も話しやすい環境・体制づくり、ヒアリングの徹底をお願いします。 ○いじめ対策にしっかりと取り組んでいる。今後もこのまま、いじめのないよう取り組んでいただきたい。 ・保護者アンケートが100%なのはとても良いが、児童アンケートが100%になっていないのが残念。1人でもいじめはいけないと思わない児童がいるなら、必ずいじめがあると思うから。また、いけないとわかっていてもやることも多いので、「いじめ防止川柳」を作ることには効果があるとは思えない。 ・引き続き情報共有し、未然防止に努めてほしい。	引き続き、全教職員で情報を共有しながら未然防止に努め、早期対応していく。 ・人権学習を引き続き行い、いじめを許さない意識を培っていく。 ・日頃から子どもものいじめにつながる言動をそのままにせず、本人たちへ指導するとともに、クラス全体でも考える場を設ける。
	2 登下校の安全確保 ・PTAや安全ボランティア等と連携し、登下校時の児童の安全確保に努める。 (児童アンケート「地域の人に見守られていると感じますか」90%)	○児童アンケート 99%	○PTAや安心安全ボランティア、地域の方々の日々の登下校時の見守りや、教員による登下校指導により、交通事故は0件であった。 ○不審者情報や野生動物の目撃情報があった際には、教職員が現場を確認し、児童への注意喚起を行った。	○すばらしいと思います。 ○ボランティアで登下校時の見守りをされている方もみえるようで、地域からも児童を大切にしているという姿勢が感じられます。 ○登下校の時に地域の方々に見守られていると感じることは、児童だけでなく保護者にとって安心感があってとても良い。 ○見守りボランティアの方々に感謝いたします。 ・二学期になり、徳島地区の保護者の下校時の付き添いが見られなく感じたが、何か事情があるのか？	・今後も、保護者や地域の方々と連携しながら、登下校の安全を確保していく。 ・日々見守っていたい地域の方々に対し、あいさつや感謝の言葉を伝えるなどの行動を通して、感謝の気持ちや伝えられるよう、指導していく。
	3 防災教育・安全教育の推進 ・防災訓練及び安全教室を実施し、危険の予知・予測や判断力を高め、自分の命は自分で守れる児童を育てる。 (防災訓練年3回、安全教室2回実施) (保護者アンケート「学校は、子どもの安全確保を配慮して教育活動を行っていますか」95%以上)	○保護者アンケート 100%(100%)	○避難訓練を実施し、「お・は・し・も」を意識して避難する姿が見られている。 ●今後、近年見直されている避難訓練の方法を本校でも取り入れていく必要を感じる。 ○交通安全教室では、次年度中学校へ入学する6年生に向けた自転車の乗り方の実習を行った。児童は交通安全を意識して取り組むことができた。 ○今年度は万引き防止教室を行った。1～3年、4～6年に分けて行い、学年の発達段階に合わせた指導を行った。	○すばらしいと思います。 ・避難訓練の方法の見直しは、必要かと思います。 ・近年見直されている避難訓練の方法とは、どんなことか知りたい。 ・今後も指導をお願いします。 ・5～6年生への交通安全教室時に「自転車の乗り方」など法改正された内容を周知徹底を図ったのか。(実習も必要だが、内容も必要かと思う) ・私の経験から、「拾得物の取扱い」などについても教育が必要でないかと思います。 ・交通安全教室について、これまでの事故に遭わない為の教室も行いつつ、今後の取組として「もしも事故に遭ってしまったらどうするの？」が分かる交通安全教室も取り入れて頂き、ひき逃げ事故防止につなげていけるといいなと思います。 ・防止BOX(リュック)も授業に取り入れて頂けると知識が広がる+意識づけもできると思います。避難先で必要な物を用意する。一般的な教室用以外で必須なものや等、考えるきっかけになりますね。 ○働き方が改革されているのは児童にとっても良い影響がある。先生に余裕がなくなってくると一人ひとりの児童に目がいかなくなるから。 ○素晴らしい成果です。 ・先生方が心身ともに健康であることが一番大切だと思います。 ・教職員の労働時間が短縮されたのは、良かったと思います。昨今、学校職場への就職希望者が減少しているようなニュースを耳にしますが、学校職場が「ブラック職場」であるとの認識を持たれている為ではないでしょうか。今までは、個々の先生方の情熱と自己犠牲により成り立ってきた部分があるように感じます。個人的な感想にすぎませんが、教職員の働きやすい環境が整備されることを望みます。 ・事前に会議の内容を全員が知っていること、その日に話し合いたいといけな事優先順位を決めておく。 ・引き続き働き方改革を進め、職場環境を良くしてほしい。	・来年度に向けて避難訓練の方法を他市町の避難訓練の情報を手に入れるなどして、見直ししていく。 ・自転車の乗り方については配付資料をもとに各クラスで伝えている。 ・事故にあった場合の対応方法について継続して指導していく。 ・各学年で「防災ノート」等を使った防災教育を継続して行っていく。 ・交通安全教室を引き続き行っていく。
教職員の働き方改革	1 教職員の総勤務時間の縮減 ・一人当たりの月平均労働時間 35時間以下 ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 20人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 15日以上 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 60%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 50%以上	○月平均労働時間外時間 22.3時間 (R5:37.6時間) ○月45時間超時間外労働者延べ7人 (R5:25人) ○年360時間超え時間外労働者1人 (R5:2人) ○年間休暇取得日数 11日 (R5:9.3日) ○定時退校日実施率69.9% (R5:44%) ○60分以内に終了した会議 36.4% (R5:34.5%)	○一人当たりの月平均労働時間の平均が大幅に削減された。月45時間を超える時間外労働者もほとんど居ない。一人ひとりがワークライフバランスの実現に向け、労働時間の短縮につながるよう、効率的な働き方改革に積極的に取り組むことができた。 ○事務職員が職員の休暇取得状況をしっかりと把握し、管理職に報告することで、連携して休暇の取得を勧めることができた。教職員全体で、互いに休暇が取りやすい声掛けや職場環境づくりに努めることができた。 ●会議時間の短縮にも努めたが、まだ60分を超えることが多い。効率的提案の仕方やICTの活用など、さらに工夫をする必要がある。	○働き方が改革されているのは児童にとっても良い影響がある。先生に余裕がなくなってくると一人ひとりの児童に目がいかなくなるから。 ○素晴らしい成果です。 ・先生方が心身ともに健康であることが一番大切だと思います。 ・教職員の労働時間が短縮されたのは、良かったと思います。昨今、学校職場への就職希望者が減少しているようなニュースを耳にしますが、学校職場が「ブラック職場」であるとの認識を持たれている為ではないでしょうか。今までは、個々の先生方の情熱と自己犠牲により成り立ってきた部分があるように感じます。個人的な感想にすぎませんが、教職員の働きやすい環境が整備されることを望みます。 ・事前に会議の内容を全員が知っていること、その日に話し合いたいといけな事優先順位を決めておく。 ・引き続き働き方改革を進め、職場環境を良くしてほしい。	・会議時間の縮減を行うため、事前に資料の配付を行い、提案内容の共有を図る。 ・会議の必要性や優先順位を考慮し、会議の持ち方や内容を検討していく。 ・授業の余剰時間や学校敷量の時間を見直し短縮することで、放課後の時間にゆとりを作り、学級事務等が効率的に進められるようにしていく。 ・毎月、定期的に定時退校日を設定し、積極的な退校を促す。 ・休暇を取りやすい職場の雰囲気づくりを行い、教職員一人一人がワークライフバランスを考慮した年休取得率の向上を図る。